

農

農業人

WAZABITO

PROFILE

さとう ゆたか

佐藤 豊 さん

SATO YUTAKA

48歳

弥富市五明



ブランド化を目指す イチジク栽培

弥富市五明でイチジク栽培に取り組み佐藤豊さんは、約39アールの圃場で「榊井ドーフィン」や「バナナーネ」の2品種を栽培しています。約20年前、伯父の引退をきっかけに引き継いだ畑の維持管理も兼ねて、同市の特産であるイチジクの栽培に取り組み始めました。現在は、ご両親や兄弟とともに家族5人で経営を行い、当JAを通じたコンテナ出荷を行うなど、安定した供給体制を築いています。

収穫期は8月上旬から11月中旬にかけて続き、午前中に収穫と選別、午後コンテナ詰めやパック詰めを行い出荷します。それ以外の時期は本業である建築業と両立しながら、剪定や施肥など圃場の管理に努めています。日頃の信頼の積み重ねを最も大切にしている佐藤さんは「消費者の皆様の信頼が第一」と話します。コンテナ出荷では、当JAの選別基準表に基づいた厳格な品質管理を徹底しています。また、農業の魅力を支える仕事として、将来にわたって必要とされる点と力強く話す佐藤さん。高齢化が進む中で、次世代が技術を継承し、食の供給を担う重要な役割を果たすべきだと考えています。

一方で栽培には課題もあり、昨シーズンはアザミウマ類による害虫被害が特に大きく、果実内部に影響が出るため外観では判別が難しく、対応に苦労しました。今年はシートの設置など新たな対策を講じ、防除方法の改善に取り組んでいます。「毎年異なる病害虫への対応は大変ですが、より良い方法を模索し続けたい」と前向きに語ります。

今後の目標は、イチジクのブランド化と高収益化です。近隣農家から農地を引き継ぎながら規模拡大も進めており「現在は、生産している商品の販促活動や今後栽培が難しい品種への対応などを検討して『儲からない農業』からの脱却を図りたい」と意欲を見せます。

最後に「将来への食の供給を守るためにも、『商品の購入』という形で皆様のお力添えをいただけますと幸いです。また、生産者として魅力的な商品をご提供できるよう、日々切磋琢磨してまいります」とメッセージをいただきました。